

1. はじめに

数年前までは、フロアワークをしていると、幼顔を思い起こす制服姿の中学生をよく見かけた。「ニヤッ」と笑って通り過ぎる子や、「期末が終わったからさ・・・」とつぶやきながら展示コーナーの本をパラパラめくっていく子などがいて、こちらもおすすめの本を手渡しやすかった。ところが、ここ最近では来館する中学生が目に見えて少なくなっている。理由は、部活動や塾などで忙しいこと、インターネットや携帯電話を利用したコミュニケーション形成の変化など様々な要因が重なっていることである。図書館から中学生の姿が少なくなるのも寂しいが、「本との出会い」という楽しい経験をすることなく成長してしまふのはあまりにもったいない。このような背景から私たちは、図書館に足を運び、司書の仕事や本の知識を学ぶことを通じて、友だちや家族に本の面白さや図書館利用術を伝えるリーダー育成の必要性を感じ、中学生向けの事業実施を検討した。

2. ジュニア司書養成講座実施の経緯

図書館における中学生対象の事業は、ティーンズコーナーでのおすすめ本の展示やブックリストの発行、職場体験学習の受け入れをする程度に留まっていた。中学生の来館促進を目的として、平成 15 年度より「中学生夏休み図書館ボランティア事業」を実施したが、実際には、単なる奉仕作業になってしまい参加者の低迷が続いた。そこで、平成 23 年度より、本と人とを結びつけるリーダーを養成し、たくさんの人に図書館利用術を広げてもらうことを目的に「ジュニア司書養成講座」を開講した。

3. ジュニア司書養成講座のカリキュラム

本講座の対象は、中学生及び、中学生と同程度の読書量や図書館活動に意欲がある小学 5 年生から 6 年生としている。カリキュラムは全 10 講座・20 時間とレポート提出、認定式からなり、認定式以外はほぼ夏休みに実施されるため、受講生は部活動や塾との時間調整に苦勞している。4 年目の今年、事前に学校教育課で市内中学校の行事予定表を確認し、基本金曜日に講座を設定するとともに、時間についても昨年より 30 分繰り下げ 14 時から 16 時までとした。このように変更したことにより部活動との両立がしやすくなり、受講生は余裕を持って来館できるようになった。

ジュニア司書として認定されるためには全 10 講座をすべて受講しなければならない。そのため、日程が決まっている基礎研修 2 講座、専門研修 4 講座については、部活動の試合などで欠席の場合、補習講座を受講できるように考慮している。ジュニア司書養成講座のカリキュラムを一覧にしたものが表 1 である。

表1 平成26年度ジュニア司書養成講座カリキュラム

		カリキュラム	
第1回	7/18(金)	基礎研修1	～ようこそ、図書館へ～ 「図書館の役割と司書の仕事」 「図書館見学」
第2回	7/25(金)	基礎研修2	～司書のノウハウを学ぼう～ 「本の分類と整理」 「図書館とインターネット」
第3回	8/1(金)	専門研修1	「おすすめ本のポップを作ろう」
第4回	8/8(金)	専門研修2	「お気に入りの本を作ろう」
第5回	8/15(金)	専門研修3	「読み聞かせをしよう」
第6回	8/22(金)	専門研修4	「レファレンスってなあに」
第7回		実務研修1	「カウンター業務と配架」
第8回		実務研修2	「カウンター業務と本の修理」
第9回		実務研修3	「カウンター業務と予約・リクエスト」
第10回	8/22(金) 午後 8/26(火) 午前	実務研修4	「おはなし会をしよう」
第11回	11/9(日) 午前	ジュニア司書認定式	

基礎研修は2講座4時間からなっており、ここでは自分だけでなく、周りの人にも図書館利用の案内をできるようにするためのカリキュラムを組んでいる。この2講座を受講後に、各自で日程を決める実務研修(カウンター実習等)を受けるようにしている。

基礎研修1では、まず、参加者全員が和やかな雰囲気になるように、簡単なゲームを使って自己紹介を行い、仲間意識が芽生えるようにした。そして「図書館の役割と司書の仕事」を学ぶことにより、図書館に関心を持たせ、さらに図書館をテーマにしたブックトークを楽しんだ後、「図書館見学」を行う。

基礎研修2では、NDCの説明と本のならび方をクイズ形式で進めていく「本の分類と整理」を受講する。そして、「図書館とインターネット」と題して、図書館ではどのようにコンピュータやインターネットが使われているかを説明し、実際に図書館のホームページやOPACを見ながら利用方法を解説する。また、カウンター実習に備え、貸出・返却・接遇もこの基礎研修で身に付けるようにしている。

専門研修は、本を興味深く紹介するポップの作成講座、うちどくノート¹⁾をベースに、和綴じ本を作成する講座、読み聞かせについて学び、自分たちでおはなし会を企画実施するための講座、レファレンスについて学び、実際にレファレンスブックを使って問題に挑戦してみる講座、の4講座8時間を設けている。

実務研修も専門研修と同じく、4講座8時間を設けているが、実務研修4を除く3講座は各自が日程を調整して受講する。カウンターでの貸出・返却業務、書架整理と返架作業を行う講座、カウンター業務と主にフィルムコーティング作業をする講座、カウンター業務

と予約入力・リクエスト資料の発注と相互協力を行う講座、受講生によるおはなし会、を設けている。全てのカリキュラムの受講後、800字相当のレポートを提出させ、審査に合格した受講生について、ジュニア司書として認定するという流れである。

認定式は、八街市教育の日月間である11月に実施する。教育長より認定証を授与された後、ジュニア司書活動を共に行う先輩ジュニア司書との対面式となる。全10回を共に達成した受講生同士の仲間意識も高まり、認定式終了後も会場に残り、近況報告などで盛り上がる姿を見ると、私たちはこの講座を実施した達成感を覚える。

4.ジュニア司書による読書推進活動

図書館では、ジュニア司書としてすでに認定した生徒から、年度当初に「活動予定表」の提出を受け、1年間の活動を支援している。

館内では、おはなし会スペシャルへの参加、受講生への助言、団体貸出用図書（学級文庫サービス）の整理、ポップ作成、クリスマスプレゼント作成、ブックリスト掲載用「本の紹介文」の作成、カウンター業務などを行っている。さらに、学校では、移動図書館の補助、図書館発行ブックリストのPR、学校図書室についての報告・相談などの活動を行い、地域においても地区主催の子育てフォーラムに参加し、読み聞かせやおはなし会などの活動をしている。

5. おわりに

手探り状態ではじめてのジュニア司書養成講座も平成26年度で4期生を迎えることができた。1年目は、繁忙期の夏休みに新規事業を立ち上げることに、当然のことながら難色を示す声もあがった。しかし、子どもたちの生活環境が大きく変化し、読書離れが進んでいる今だからこそ、中学生による読書推進活動が必要であると私たちは考えている。この取り組みは図書館だけでできるものではなく、学校・家庭・地域との連携が不可欠である。講座が進むにつれ、違う学校、違う学年の生徒たちが「本」を通して打ち解けていく様子を見ると、その先に家庭で、そして学校で、読書の輪が広がっていく様子が想像できる。

一方、ジュニア司書養成講座を実施するためには、時間的、人的負担が非常に大きい。毎年、受講状況の管理などに苦勞するため、誰が見ても対応できる管理表の作成などの工夫をしている。今後は、講座実施マニュアルを整備し、生涯学習施設として市民ボランティアとの協働も視野に入れ、多様な手法を取り入れながら読書普及につなげていきたいと考えている。

注

1) 「家読推進プロジェクト」より ― 家族の読書活動を記録するノート

<http://uchidoku.com>

第100回全国図書館大会東京大会要綱

第100回全国図書館大会組織委員会 2014年10月31日発行

p 263～p 265より転載